

Link “新風” Vol.53 (通算 第146号)

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る。」とされているように、2013年になってから早いもので2か月が経ちました。まだまだ寒いですが、暦の上ではもう春ですね。春と言えば、出会いと別れの季節。あと、花粉症の人には辛い季節かも。なにはともあれ、暖かい春が待ち遠しいです。



『技術力』

『今月の表紙』

東京スカイツリーの一番上の展望台「展望回廊」(地上450m)から撮った写真です。塔の影が雲に映っていて、規模の大きさに圧倒されました。これを作ったのが日本の技術力だと思うと、まだまだ捨てたものじゃないなと思いました。我々も、自分たちの技術力を信じて日々の仕事に集中し、お客様に満足される製品とサービスを提供していけるよう頑張っていきましょう！

撮影日時:2012年9月16日 撮影と文 :製造部 石山さん

“危”と“機”

- 1** 2月中旬に暖かい日が2~3日あり、土の香りがほのかに漂っていたのですが、その後は寒さが戻ってしまいましたが、地表に緑があちこちに見られ春の到来も近いことを告げています。寒さももう少しの辛抱です。

いよいよ我社は3月から42期下期に入ります。誠に厳しい今期ではあります。経営は生き物であり浮き沈みがあるのは世の常であるわけですが、社員一人ひとりがその危機感を感じ取り、変化で対応していく気構えがない限り好転は望まれないことは明らかです。会社も個人も、「憂きことの なおこの上に 積もれかし 限りある身の 力試さん(熊澤蕃山)」の精神で戦っていききたいものです。昨日と違うやり方、考え方、生き方で、己の価値を高めていこうではありませんか。

- 2** 政府はいよいよTPP(環太平洋連携協定)の交渉参加の動きを活発化させています。米国と日本はそれぞれ自動車、農産物のみがポイントと叫ばれていますが、医療など含めて24部会があるわけで、それぞれ重要な課題を国策で対応していくべきと考えます。

農作物で言えば、川勝静岡県知事は「守勢で守るか、攻めながら守るか、守り方の問題。日本の食文化のレベルの高さに自信を持っていれば恐れるに足りない。本件を中心とした食文化が世界に羽ばたく機会でもある」と語っています。前に進まなければ進展がないということでしょう。

私は、農作物でいうなら守らなければならない最大のポイントは、食の安全と考えます。自国内では食べないが日本へは輸出するという国があると、まことしやかに聞こえてくる噂があります。

我々には、子供たちが安全で健やかに成長する環境を整える義務があります。しっかりした食の安全を確保する体制を築いてもらいたいし、私どもはしっかりとそれを見つめていく必要があります。

- 3** このところ東日本大地震の誘発によるとみられる地震がしばしば発生しています。日々の暮らしの中でいかにも福島原発の事故対策は収束したような感を抱くわけですが、公表されない現実・真実を私ども国民は知らなくてはなりません。

核エネルギーの全面的使用禁止を訴えるお一人に、元駐スイス大使である『村田光平』という方がいます。十数年前から原発の危険性に着目し、自然エネルギーへの転換を訴え続けてきた異色の元外務官僚と言われています。

先日、村田氏と面談する機会あり、福島原発4号機の崩壊による危機をお聞きました。燃料プールが崩壊したとき最悪の事態、すなわちメルトダウンが起きて大気中でこの火災が起きるとこれはまだ人類が経験したことがないことで、現場には近寄れなくなります。首都圏の住民も対象となる4,000万人が避難しなければならないようです。4号機のみならず1号機、6号機がメルトダウンを起こして火災を発生させると、日本のみならず世界の究極の破壊につながるのには確実だと多くの科学者は見ている、と彼は言っています。

また彼は、これからは明治維新前の調和と連帯を特徴とする母性文化に戻るべきであり、父性文化が続く限り破壊への道をたどることになるとも。近々、村田光平氏の講演を聴講する予定なので、この父性文化、母性文化についてはまたの機会に報告したいと思っています。

3.11の震災時に4号機が最悪の事態を免れたのは、地震直前の意図しない工事の不手際によって救われたということが判明していますが、九死に一生を得た幸運を今後の判断によってはそれを葬り去ることになりかねないと思います。まだまだ原発事故処理は終わっていないのです。

- 4** 一般国民が知りえないことが多いなか、己の利益のために生きるのではなく、他人(ひと)のために生きる方々が日本の舵取りをしっかりと欲しいと念願する次第です。もちろん、会社も同じことと認識しています。

それではこの辺で、ご安全に！

社長 赤堀肇紀



工場南側の桜もかなり花開いてきました。春近いですね。



今回は、当社の経営理念について、紐解いてみたいと思います。



◆初期◆

わが赤武は、顧客の繁栄に奉仕する仕事を通じて、社員の豊かな生活の実現と、会社の永続的な繁栄を念願する。この考え方に共鳴する同士の総力を結集して、

1. 顧客、仕入先に満足される誠実な仕事をする。
2. 社員の豊かな生活の実現に努力する。
3. わが赤武の成長と繁栄に全力をつくす。

この3つの利益が常に一致するような経営を通じて広く社会に貢献することを経営理念とする。



・基本はそのままに、より覚えやすく！
・重複箇所を無くし短く！

◆現在◆

わが赤武エンジニアリングは、顧客の繁栄に奉仕する仕事を通じ、全社員の総力を結集して、

1. 顧客、協力会社に満足される誠実な仕事をする
1. 社員の豊かな生活の実現に努力する

1. わが社の成長と繁栄に全力を尽くす

この三位一体の経営を通じて広く社会に貢献することを経営理念とする。

左に、初期の経営理念と現在の経営理念を比較してみました。

こうしてみると、経営理念は当初から一貫したものだというのが良く分かります。

これは、先代社長が経営に対する原理原則を学び突き詰めた上で掲げた理念です。

「一人の力で事業が成功することは絶対無い。一人の力が他人の協力を得たとき初めて成功する。そして、協力を得られるのは何か。経営現象のあるところ必ず経営理念がある。そしてその理念の善し悪しが企業の優勝劣敗を決めることも東西を問わず厳然たる事実である」

経営理念とは、昔も今も変わらず赤武エンジンの在り方を示す指標ということです。

なお経営理念の策定に当たっては、(株)タナベ経営様にご協力いただいたとのこと。その当時から今日まで、非常に永くお付き合いいただいております。

ちなみに、経営理念と共に策定された行動指針の5ヶ条については、創業以来全く変わっておりません！

自鳥部長のインタビュー記事が日刊工業新聞に掲載されました！

5 2013年(平成25年)2月20日 水曜日 日刊工業新聞

モノづくり MONODZUKURI 製造 水

扱いの難しさから「魔物」とも称される粉体。赤武エンジニアリング(静岡県沼津市)は貯蔵、計量、輸送といったハンドリング分野を手がける。白鳥浩製造部長兼安全管理室長に、現場での課題や人材育成について聞いた。

(静岡支局長・伊奈淳)

◆ 「粉体を扱う難しさとは。」「粉体は同じ物質でも粒の大きさや状態の違いで全く違う物性を示す。ナノテクノロジーに代表されるように粉体の超微細化が進んでいる。粉は細かくなればなるほど貯蔵、輸送に難し

い条件が出てきて扱いが困難になる。その進化に立ち向かっていかねばならない。」「工場ではどのような技能が必要ですか。」「粉体機器の開発・設計は技術部で、製造部は図面に従い組み立てる。社内テストでうまくいっても現場ではうまくいかず、現場で即解決しなければならぬ場合もある。粉の扱いは経験値によるところが大きい。実際の粉の動きを見て、経験に裏打ちされた計算や予測で調整していく。大事な技能継承部分だ。」「人材育成の基本方針は。」「製造の役割は、より早く、より安く、より高い品質の三つ。オン・サ・ショブ・トレイ

ニッケ(OT)など社員に必要なスキルを実務に即した内容で、より具体的なスキルマップをつくり、3段階でスキルアップを図っている。5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)活動にも力を入れている。」「成果は出ていますか。」「ユーザーから、来てもらって助かったなどの声が増えており、対応力や提案力もついてきた。外部で安全に関して表彰を受けるケースも出ている。5S活動では工場を通路と作業スペースをはっきり区分し、きちんとエリア分けをした。県内外から多数社員が工場見学に訪れ、粉体から工場との印象を持たれている。」「今後の課題は。」「製造であってもユーザーとのコミュニケーション力を上げていくことは重要だ。製造は現場にいてユーザーの生の声が聞ける。現場の声を吸収し技術部に提案できるようにスキルを上げていきたい。製造部から技術部に提案していくことで技術向上にもつながる」

赤武エンジニアリング 製造部長兼安全管理室長 白鳥 浩氏

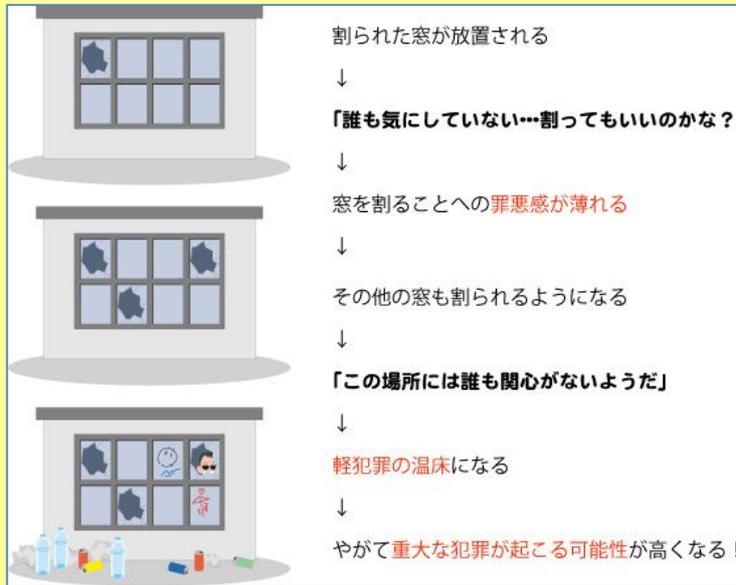
伝承の力 工場長に聞く

OJTで現場対応力向上



皆さんは『**割れ窓理論**』というものをご存知でしょうか？

割れ窓理論は、アメリカの犯罪学者が考案した環境犯罪学上の理論で、「建物の窓が壊れているのを放置すると、誰も注意を払っていないという象徴になり、やがて他の窓も間もなく全て壊される」との考え方から名付けられたものです。そしてそれは、下図のように重大な犯罪の可能性にもつながってきます。



これを、5Sに当てはめてみましょう。

例えば、工場のゴミ箱の周りにゴミが落ちていたとします。

これを放置すると、ゴミを捨てる(清掃)意識が薄れ、次第に落ちたゴミが増えていきます。あるいは、ゴミ箱が一杯になっていても気にしなくなるかもしれません。

次第に、その周りの5Sも低下していき、最終的には全社的に蔓延してしまう恐れが出てきます。

人間は楽をしたがる生き物です。

もしゴミが落ちたまま放置されていれば、心理的抵抗が薄れ、「あ、ゴミが落ちててもいいんだ」という意識に変わってしまいます。

でも逆に言えば、ゴミが落ちていたら気付いた人がゴミ箱に捨てる、これだけで意識低下は防げるといことになります。

実際の事例として、ニューヨーク市では地下鉄の無賃乗車や落書きを「割れ窓」に見立て、これらを徹底的に取り締まった結果、劇的に犯罪が減ったそうです。

また、東京ディズニーランド・東京ディズニーシーでは、ささいな傷をおろそかにせず、ペンキの塗り直し等の修繕を惜しみなく夜間に頻繁に行うことで、従業員のサービス品質の向上だけでなく、来園客のマナーを向上させることに成功したそうです。

部屋をトコトン掃除しキレイにしたら散らかすのがためらわれてしばらくその状態が続いた、なんてことがみなさんも経験があるんじゃないでしょうか？

当社が5Sを維持できているのは、定期的な5Sチェックの実施や、各人の5Sに対する意識の高さによるものだと思いますが、上述のような考え方をもちそれを徹底して確実に行っていくことで、より高いレベルを維持していくことができるようになるはずですよ。

例えば、受付箱が一杯にならないようこまめに片付ける、期限切れの書類や備品があれば速やかに処理する、一仕事一片付けをする、ゴミ箱のゴミをこまめに捨てる、机や床の汚れに気付いたらすぐ掃除する、定置表示がなくなっていたら再表示する、通路ラインが剥がれていたら貼り直す、服装の乱れがないよう注意する、など日常的に実践できることは多々あります。

後戻りをしない5Sを実践するため、このような身近ですぐにできることから徹底してやっていきましょう！

「人は、匿名性が保証されている・責任が分散されているといった状態におかれると、自己規制意識が低下し、『没個性化』が生じる。その結果、情緒的・衝動的・非合理的行動が現われ、また周囲の人の行動に感染しやすくなる。」

心理学者フィリップ・ジンバルド